

法人統合の源流？ — 岐阜農専の越県包括構想 —

新制名古屋大学と新制岐阜大学は、他の新制国立大学とともに、1949年5月31日に設置されました。実はこの時、両大学が県を越えた1つの大学になっていた可能性がありました。

1939年創立の名古屋帝国大学は、戦時体制下において設置できたのは医・工・理の3学部だけで、農学部は設置を許されませんでした。戦後も、農学部の創設は難航しました。農学部には、良質で広い農場や演習林などの附属施設が不可欠であり、相当な費用がかかるからです。

この問題を打開するため、当時の田村春吉総長は、岐阜農林専門学校（岐阜農専）を越県包括し、農学部の基礎とする構想を打ち出しました。田村総長は、岐阜農専が全国で最も多い6学科を有するなど、日本屈指の農林専門学校であることに注目したのです。1947年9月に田村総長から提案を受けた岐阜農専では、学生と教職員が全校挙げての名大合流運動に乗り出し、

田村総長とともに文部省に強くはたらきかけました。

ところが、1948年に入って、GHQの意を受けた文部省が、一府県に一国立大学を設置し、その国立大学の所在地を複数の府県に跨らせない方針を示しました。岐阜県では、岐阜農専を県内に新設すべき国立大学の母体とする気運が高まり、同年7月には、文部省が名大の岐阜農専包括を認めないことを決定しました。

それでも、田村総長と岐阜農専は簡単には諦めず、その後も熱心に運動を続けました。この件は政治問題化し、GHQの東海北陸軍政部長官が岐阜農専の主張に理解を示し、岐阜県知事に名大合流反対声明を取り消すよう勧告する一幕もありました。1949年1月には、吉田茂首相と地元の^{おおのばんぼく}大野伴陸衆議院議員が、岐阜農専を視察して関係者から事情を聴取しています。

結局、この構想は実現せず、新制名大の発足時に農学部は名を連ねることができなかったのです。



- 1 岐阜農専全景（1926年）。1923年の創立当初の名称は岐阜高等農林学校で、1944年に改称された。校地は稲葉郡那加町（現在の各務原市）で、愛知・岐阜の県境の近くにあった。新制岐阜大学農学部（現在の応用生物科学部）の母体となった。
- 2 田村春吉総長（写真は名帝大医学部長時代）。新制名大発足直前に亡くなり、農学部の設置を見ることはできなかった。
- 3 安城時代の名大農学部。愛知県や県内の諸団体による国への寄附金、碧海郡安城町（現在の安城市）の誘致などにより、1951年に設置された。
- 4 1980年の岐阜大学農学部。岐阜農専時代の建物がまだ残っている。1982年に現在の柳戸キャンパスへ移転した。

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金ご支援のお願い

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延しており、健康医療は言うに及ばず、私たちの社会活動に広範かつ深刻な影響を及ぼしております。名古屋大学の学生への影響も甚大であり、学ぶ意欲をもちながらも困窮している学生の支援や、遠隔授業等の学習環境整備により、質の高い教育活動を維持するため、ご支援をお願いいたします。

Webでもご寄附を受け付けております。



<https://fundexapp.jp/nagoya-u/entry.php?purposeCode=110000>

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office (DO室) まで（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

